

2. 社会実験の目的

(1) 目的

本実験は、中央1丁目地区の将来像に向けた施策を試行し、その有効性を検証することを目的とする。

(2) 実験によって検証する事項

①歩行者空間ネットワークの検証

- ・ トランジットモール空間の創出によって、滞留空間としての可能性や新たな道路空間活用の可能性について来街者の属性（居住地、年齢、性別）、行動（回遊性、滞在時間等）の変化を検証する。
- ・ 商店街との共有スペースの創出が、空間に魅力向上の効果があるかを検証する。
- ・ 歩行者優先の道路空間の整備によって、道路混雑の悪化、路上駐車増加など周辺への影響について検証を行う。
- ・ 自動車の乗り入れ規制が商店街に与える影響の検証
- ・ 自動車の乗り入れ規制による沿道商店街の荷さばきや商品の搬入などの影響について検証する。

②自動車交通に与える効果,影響の検証

- ・ 大名町交差点における信号現示を変更することで、周辺交通にどのような影響が出たかを検証する。
- ・ 中央1丁目地区周辺において交通規制を変更することで、渋滞や路上駐車などの自動車交通及び各事業者（荷捌き事業者、客待ちタクシー等）へどのような影響を与えたかを検証する。
- ・ セミモール空間を創出することで、トランジットモール時との周辺交通影響を比較する他、各事業者へどのような影響を与えたかを検証する。

③公共交通機関アクセス体系の整備

- ・ 中心市街地へのアクセスを自動車から公共交通機関に転換する提案をしていくために、福井鉄道沿線に駐車場を確保し、パークアンドライドを実施する。
- ・ 公共交通機関利用者数の変化と自動車から公共交通機関への転換状況を検証する。
- ・ 中心市街地を縦断する福井鉄道の路面軌道を利用し、小型車両によるシャトル運行を行うことで、起点から中心市街地へ、あるいは中心市街地からその周辺への新たな短距離間の移動手段としての可能性を検証する。
- ・ 公共交通機関の新たなサービス向上策を検証する。

④市民参加による賑わいのまちづくりの推進

- ・ トランジットモール空間の中に市民活動スペースを提供する。
- ・ 実験への参加により、施策の内容や意義などが正確に理解され、市民の意識が変化したかについて検証を行なう。
- ・ 市民に対する実験内容の周知や参加の呼びかけの方法など、正しい情報が広く伝達できたかを検証する。

⑤関係者間の合意形成の過程の集約

- ・ 実験準備から実施にかけて、関係者間の利害調整と合意形成の過程について検証を行う。
- ・ 発生した関係者間の利害に対し、どのような方法で調整を行ない、合意形成が図れたかを検証する。